

2026 年度 大学卒業生調査報告（抜粋）

1 報告要旨

本報告は、卒業後 3 年が経過した 2023 年 3 月卒業生を対象に行った「卒業アンケート」を基に、本学でのキャリア支援と学びの有用性などをまとめたものである。

全体として「学生時代に身につけた知識・スキル」が実社会で役に立っているかという設問に対して、肯定的な評価が得られた。また、ディプロマ・ポリシーに基づく能力では、昨年に引き続き「他者尊重」や「コミュニケーション能力」について、肯定的な回答の割合が高く、本学が重視する「ここを育てる」教育の成果が継続的に確認された。こうした傾向は、社会人となった後も人間関係や職務遂行の基盤となる力として発揮されていることを示唆している。各学部的主要傾向と課題は以下の通りである。

本アンケートは、2026 年 5 月に対象者 128 名中 33 名より回答を得た。回答者内訳は、人間学部 27 名、看護学部 6 名であった。

■人間学部

どの設問でも否定回答はほとんどなく、高い肯定的評価を得ている。社会人 4 年目の転換期に汎用的能力が高く評価された事実は、目先の即戦力に留まらない成長の土台が形成されていることを示唆している。また、友人や先輩との交流やアルバイトの評価も一様に高い点から、キャンパスライフの充実や学生サポートの質の高さがうかがえる。

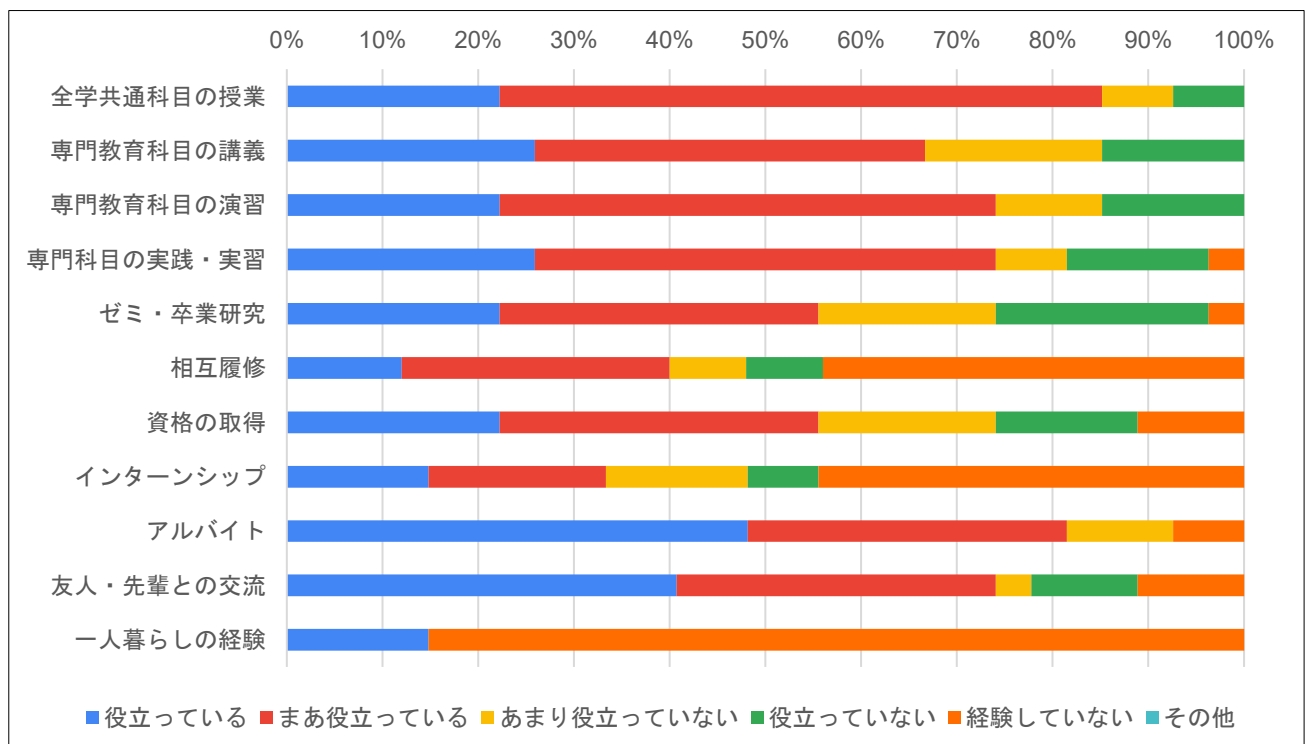
■看護学部

「建学の精神・倫理観」で肯定評価 100%（最高評価 60%）、「他者尊重」でも肯定評価 100%（最高評価 50%）を示している点から、本学の教育理念である豊かな人間性や高い倫理観の育成が、臨床現場でいきる専門職としての土台となっていることがうかがえる。

2 結果の概要

Q.社会に出て仕事をしてみて感じたことについて

■人間学部



■看護学部

看護学部 記述式の回答

○専門基礎科目の講義・演習・実習（人体の構造と機能、病態学など）

- ・病態をアセスメントする上で活用できる。
- ・日々の業務で患者のアセスメントを行う上で必要な知識だった。勤務が整形外科だったため、就業後の学習は専門分野に偏っていたが、基礎疾患をもつ患者が入院してきた際には役に立った。

○専門科目の講義・演習（各領域の講義や実習）

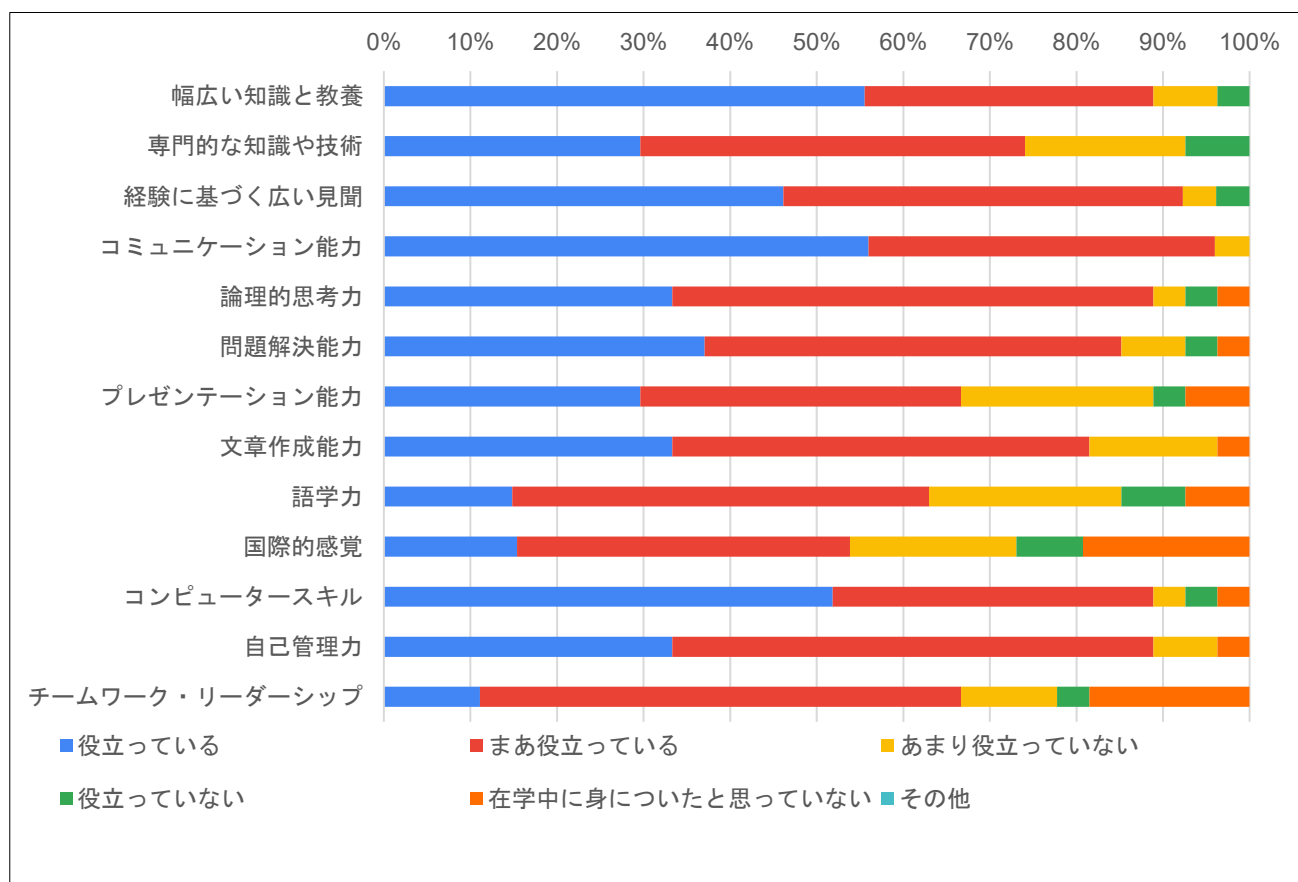
- ・入職してすぐに患者さんにケアや看護技術の提供を行った。病院独自のやり方などもあるが、ケアの基本を知っていない時できなかったため病棟配属になってすぐに役に立った。
- ・急性期病院に勤務しているため、疾患について学習したい際には、大学時代の成人看護学の講義資料や、国家試験対策として自分でまとめたノートを振り返ることがあり、現在の業務にも役立っていると感じる。一方で、就職後は関連図の作成を求められる場面が多く、4年目となり新人指導を行う立場になった現在でも、自身の関連図作成能力には課題が残っていると感じている。講義や実習の中で、関連図についてより深く学ぶ機会があれば、臨床でさらに活かすことができたのではないかと思います。

○臨地実習（病院・施設での実習）

- ・患者とのコミュニケーションなど基本的なこと
- ・実習で行った細かい患者アセスメント、看護計画の立案などは、日々の受け持ちではそこまで突き詰めることはあまりないが、プライマリーとして患者の個別性にそった看護を考える時、実習で行った受け持ち患者のアセスメントを振り返ることがあった。実習でも整形外科病棟に行ったが、実際配属されて勤務すると、実習中に感じていたイメージとは違った。

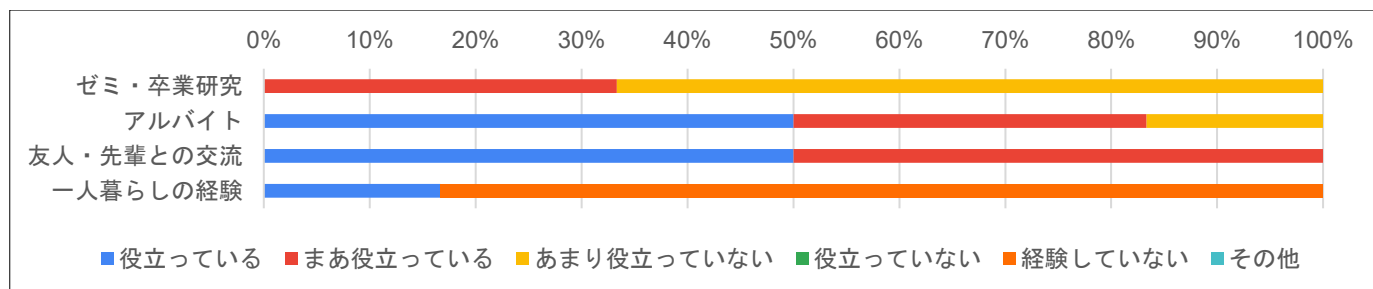
Q.人間学部：「学生時代に身につけた知識・スキル」は実社会で役に立っていると思いますか

■人間学部



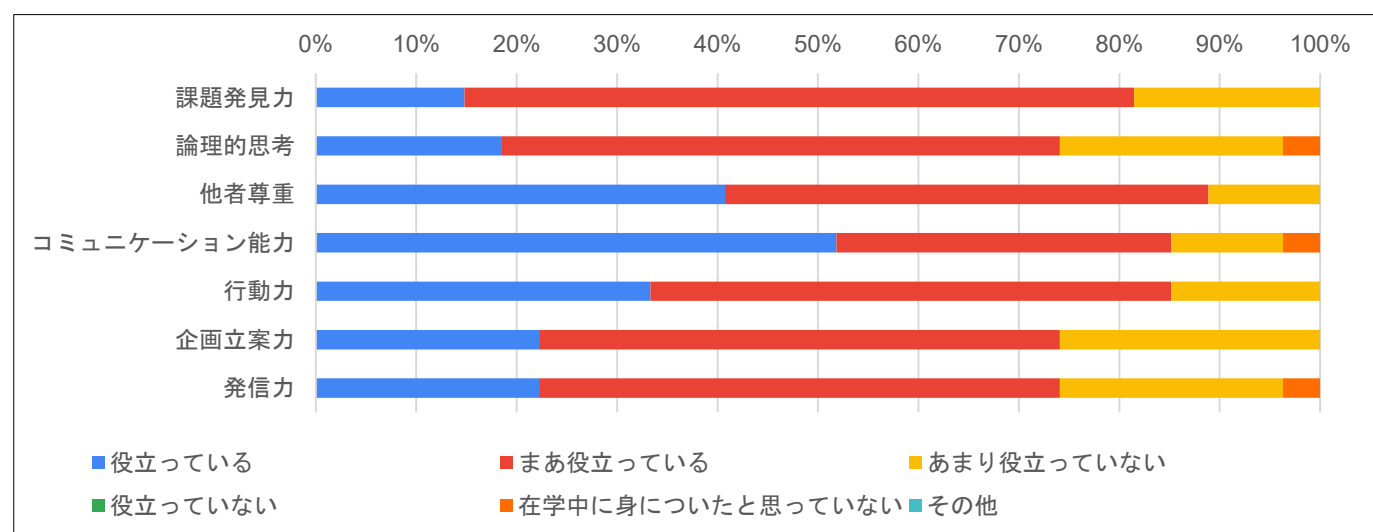
Q.看護学部：「大学での学び・経験」は実社会で役に立っていると思いますか

■看護学部



Q.本学が掲げる「学位記授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を基に作成したカリキュラムマップにより学生時代に身につけた能力は実社会で役に立っていると思いますか

■人間学部



■看護学部

